

市史編さんだより

暮らしの記憶



民俗・文化財部会
部会長 段上達雄氏

民俗とは人々の暮らし全般のことです。漁業や農業などのなりわい、衣食住から人の一生、年中行事、信仰など、さまざまな慣習が含まれています。気候や地形などの自然環境、その土地の歴史によって、民俗は地域ごとに特色を持っています。佐伯は海から山まで自然豊かな地域で、人々は自然と共生しながら暮らしを創り出してきました。このよう

市史編さん市民講座開催

去る11月8日(土)三余館において令和2年度第1回市史編さん市民講座を開催しました。歴史資料館の特別展「さいき城山の面影を探して」との合同イベントとして、大分県立埋蔵文化財センターの小柳和宏氏(先史・古代・中世部会)をお招きし「城と町の成立」を講義いただきました。



県立埋蔵文化財センター 小柳和宏氏

や魅力などについて学ぶことができ、楽しい講座になりました。

市指定無形民俗文化財(とんど焼き)

1月15日(金)上浦地区の夏井コミュニティセンター前広場で無形民俗文化財とんど焼き(市指定)が開催されました。

江戸時代後期からと伝わる正月の恒例行事とあって、地区内から50人ほどの人が訪れ、しんとした空気の中、パチパチと燃える上がる炎を囲み今年1年の無病息災を祈願しました。会場では、とんどの火で焼いた芋や餅、お神酒なども振舞われました。



上浦地区・夏井とんど焼き



民俗部会のようす

- 11月29日 佐伯市史編集委員会
- 11月15日 文化財部会
- 10月6日 自然部会
- 8月24日～9月25日 現代部会
- 8月9日 民俗部会
- 8月8日 先史・古代・中世部会
- 7月4日 近世部会
- 6月23日 近代部会
- 5月27日 佐伯市史編集委員会

佐伯市史の編さん今年で3年目を迎えました。総監修の豊田寛三氏をはじめ編集委員会(委員長・佐藤晃洋氏)と各専門部会を中心に取り組んでいます。上巻の現代史編では市職員が執筆を行い、中巻の歴史編、下巻の自然編、民俗編、文化財編は各専門部会に所属する委員からご協力いただいております。なお、今年度は次のとおり開催しましたのでお知らせいたします。



佐藤晃洋編集委員長

市史編さん活動報告

《発行》
佐伯市教育委員会
社会教育課
市史編さん係
《電話 22-4095》
2021年(令和3年)
【第4号】

資料に関する情報提供のお願い

市史編さん係では、古い資料などを探しています。引越しや家の整理・片付けの際、古い道具や写真・書類など見つかりましたら、ぜひお知らせください。

また、冠婚葬祭や年中行事などで昔から行われているしきたり、風習についても調べています。

何かご存じでしたら情報提供をお願いします。

皆様方のご協力をお願いいたします。

【問い合わせ・連絡先】TEL 22-4095

感染症・コロナと佐伯

コロナという感染症があります。日本ではもう流行することはありますが、世界では毎年数百万人が感染し、10万人くらいが死亡しているといわれます。コロナはもともとインドの風土病でしたが、インドがギリスの植民地になってから、世界中に広がりました。コロナ菌に感染すると、下痢や嘔吐を繰り返し、脱水症状を起こして死亡します。発症してから2日から3日で死んでしまうので、日本ではコロナといつて恐れられました。致死率(発症した人の死亡率)も50パーセント前後で恐ろしい病気です。

コロナが日本に初めて上陸したのは、文政5(1822)年といわれています。開国後は、国内で何度も流行を繰り返しました。中でも、明治12(1879)年の大流行は深刻でした。全国で10万人以上が死亡し、大分県でも3000人近くが犠牲になりました。この大流行は、明治10(1877)年の西南戦争が原因だといわれています。明治10(1877)年にもコロナが流行しますが、九州で感染した兵士たちが、コロナ菌を全国に運びました。そして2年後、大流行を引き起こしたのです。明治12(1879)年の大流行は、愛媛県の松山市付近で発生しました。3月中旬頃でした。その後、すぐに大分県に飛び火しました。当時、中津で発行された『田舎新聞』をみる限りでは、大分県で一番早く患者が出たのが、南海部郡霞ヶ浦(佐伯市)でした(別府でもすでに感染者がいた可能性もある)。4月17日のことです。いうまでもなく、佐伯の海に向こうは愛媛県です。感染症は人の接触によって広がります。感染症の広がりが、大分県と愛媛県の人との交流の深さがみえてきます。(近代部会・部会長 長野浩典氏寄稿「著書・感染症と日本人」から)

番匠川今の中江川はまだ川幅は広く池船橋はかなりの長さがありました。城山には石垣の影が写っています。



池船町から見た城山(昭和14(1939)年以前)